

# リスクアセスメント報告書 (事例1-2)

対象作業名 : 間伐作業

実施者氏名 : ○○さん、△△さん、□□さん、◎◎さん

報告書作成日 : 平成○○年○○月○○日

No.	危険要因の洗い出し					リスク見積り (現状)		リスク評価 (現状)	リスク低減対策			改善に当たり考慮すべき事項	優先順位	
	作業名	危険要因の内容	災害に至るプロセス			可能性	重大性	リスクレベル	可能性	重大性	リスクレベル			
			～するとき	～したので	～(事故の型)になる									
8	伐倒作業	つるがらみの木	伐倒するとき	つるがらみの木が引っぱられて倒れ	下敷きになる	△	×	4	①周辺の木のつるがらみの状態をよく確認する ②あらかじめつるを切り離しておく ③切る木の順番と方向を十分考えて切る	○	△	2	つるがらみ木の伐倒の基本を再教育する ノコ、鎌等をのばしてつるを切り離す 前年の夏前につるの元を切っておく 複数の作業員で処理方法を決め作業する	1 2
9	かかり木処理作業	かかり木	かかり木を処理するため元玉切りをしたとき	かかり木の倒れる方向が変わり	下敷きになる	×	×	5	①機械力(ウインチ等)を用いて引き倒す ②木回し、けん引具等を用いて処理する	○	△	2	ガイドブロックを使い安全な方向に引く 回転させて倒す	1 2
10	かかり木処理作業	かかり木	ウインチでかかり木を引き寄せるとき	元口が障害物に当たり、引き寄せ中のかかり木が起き上がり	機体方向に倒れ激突する	△	×	4	①引き寄せる方向に障害物がないか確認する ②ワイヤロープをかかり木の元口の近くにかける	○	○	1	①②をあわせて行う ガイドブロックを使い安全な方向に引く	1
<div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; display: inline-block;">                     リスク低減対策は、検討の順序に従って考える                      ①危険作業を廃止。作業のやり方、機械、道具等を変更                      ②安全装置、保護具等の使用                      ③教育訓練、作業管理等の実施                 </div> <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; display: inline-block; margin-left: 200px;">                     対策後のリスクレベルを確保する方法を具体的に示す                      ①対策後に発生する別の新しいリスクに対応する事項                      ②残留リスクが増大しないように考慮すべき事項                 </div>														
11	造材作業(枝払い)	ソーチェーン	枝払い中に	ため枝が跳ね、チェーンソー本体で防ごうとして	ソーチェーンが膝に当たる	△	△	3	①ため枝は、まず半分程度の箇所を切り、ついで根元を切る ②チェーンソー用防護衣を着用する	○	○	1	反発を和らげるため、ため枝の内側からのこ目を入れた後、外側から切る 防護衣は正しく着用する	2 1
12	造材作業(枝払い)	ソーチェーン	材の上で枝払い中に	チェーンソーが切断枝でキックバックを起こし	ガイドバーが足(つま先/すね)に当たる	△	△	3	①材の上で作業をしない ②ガイドバーの先端部分を使って枝払いをしない ③チェーンソー用防護衣を着用する	△	○	2	安全作業の基本を再教育する チェーンソーの基本操作を再教育する 防護衣は正しく着用する	2 3 1
13	造材作業(枝払い)	玉切り材	急斜地で玉切り作業を終えたとき	支え杭が材を保持できず、材が転がってきて	巻き込まれ斜面を落下	△	×	4	①支え杭をしっかり打ち込み材を安定させておく	○	○	1	安全作業の基本を再教育する	1

## リスクの評価基準

### 災害の可能性

可能性ランク	記号
かなり起こる	×
たまに起こる	△
ほとんど起こらない	○

### 災害の重大性

重大性ランク	記号
極めて重大	×
重大	△
軽微	○

### リスクレベル

リスクの見積り	リスクレベル
××	5
×△、△×	4
○×、×○、△△	3
○△、△○	2
○○	1

### リスクへの対応

リスクレベル	リスクへの対応
5	受け入れ不可能なリスクであり、即座に他の方法へ回避する必要がある
4	受け入れ不可能なリスクであり、抜本的な対策を実施する必要がある
3	受け入れ不可能なリスクであり、何らかの対策を実施する必要がある
2	受け入れ可能なリスクであり、現時点では特に対策の必要がない(残留リスクあり)
1	受け入れ可能なリスクであり、対策の必要がない(残留リスクあり)